

第9期高岡市高齢者保健福祉計画・高岡市介護保険事業計画の取組み状況について
第9期計画期間（令和6年度～8年度）

【進捗状況について】

○:計画策定時と比べて目標値に近づいている又は既に目標値を達成している

△:計画策定時から変化なし

×:計画策定時と比べて目標値から離れている

—:その他

I 健康づくり・介護予防・認知症予防施策の充実・推進 【指標数：10（計画書 P28～P35）】

指標名	令和元年度実績	令和4年度実績	令和8年度目標	最新の現況 (令和6年11月末時点)	進捗状況
1 元気なときからの健康づくり・フレイル予防					
健康寿命の延伸	男性:健康寿命 79.39歳 女性:健康寿命 84.89歳	男性:健康寿命 78.49歳 女性:健康寿命 83.67歳	男性:健康寿命 80歳 女性:健康寿命 85歳	男性:健康寿命 78.39歳 女性:健康寿命 83.36歳	△
通いの場等地域の活動に参加している高齢者数	1,995人	1,742人	1,900人	1,903人(R5)	○
後期高齢者の質問票の体重変化(6か月間で2～3kg以上の体重減少がありましたか)に該当した人の割合	—	12.80%	減少	12.90%(R5)	△
高岡市老人クラブ連合会におけるeスポーツの実施地区数	—	—	25地区	12地区	○
TAKAOKAアプリの登録者数	—	—	3,500人	3,189人	○
2 個人の身体の状態に応じた介護予防・フレイル予防					
通所型サービスB実施箇所数	0か所	0か所	2か所	1か所	○
訪問型サービスD実施箇所数	0か所	0か所	5か所	6か所	○
地域ケア個別会議事例検討件数	10件	10件	15件	15件(予定)	○
3 認知症についての正しい知識の普及啓発と予防					
認知症サポーター養成数(うち、企業等を対象とした認知症サポーター養成数)	19,015人 (1,934人)	21,549人 (2,566人)	25,000人 (3,200人)	23,669人 (2,854人)	○
通いの場等地域の活動に参加している高齢者数【再掲】	1,995人	1,742人	1,900人	(1,903人(R5))	○
現状、課題及び今後の対応について 〈現状及び課題〉 ・健康寿命は増減を繰り返しながら、横ばいで推移している。 ・通いの場等、地域の活動に参加する高齢者は、計画策定時に比べて増加している。 ・令和6年4月から、市民の健康づくりや介護予防、生きがいつくり等を目的とした「TAKAOKAアプリ」の運用を開始した。本アプリには、健康管理機能やボランティア等のマッチング機能、見守り機能、市ホームページへのアクセス機能など多様な機能がある。より多くの方にアプリを利用してもらうため、アプリのダウンロードを促すきっかけづくりとして、アプリのダウンロード等でポイントを獲得できるキャンペーンの実施や、市内の「孫とお出かけ支援事業」対象施設等への訪問やイベント・ボランティア活動等への参加でもポイントを獲得できる取り組みを行っている。 ・高岡市老人クラブ連合会におけるeスポーツは、令和5年度に7地区、令和6年度に5地区の合計12地区において機材を導入し、実施している。令和7年度には新たに5地区での機材導入・実施が予定されている。 ・通所型サービスBについては、令和5年度に牧野地区において住民が主体となって通所型サービスBを立ち上げ、引き続き実施している。 ・訪問型サービスDについては、令和5年度から加齢等で通所型サービスBに通うことが困難な高齢者の移動支援を、地区内の事業所に担っていただく訪問型サービスDを実施している。また、令和6年度からは、牧野地区、二上・守山地区において病院への送迎支援を開始している。 ・小学校の校長会で認知症サポーター養成講座について説明し、開催について依頼を行った。 〈今後の対応〉 ・「健康たかおかスマイルプラン」に基づき引き続き生活習慣病予防、介護予防のより一層の推進による健康寿命延伸を図っていく。 ・通いの場の周知や、講師の派遣等、通いの場の後方支援を行い、高齢者が通いの場に参加を促すとともに、参加の継続の支援を行う。 ・より多くの方にアプリを利用して、楽しみながら健康づくりや生きがいつくりに取り組んでいただき、さらには多世代交流につながるよう、アプリの周知及び機能の拡充を図る。 ・通所型サービスB、訪問型サービスDの事業の実施が、市内に広がるよう、地域に出向き、意見交換を行い、円滑な事業実施に努めるとともに、当該取り組みを他地区にも紹介し、地域の実情に応じた移動支援地区の拡大、事業の拡充に努めたい。					

Ⅱ 安心して在宅生活を送るための支援【指標数：14（計画書 P36～P45）】

指標名	令和元年度実績	令和4年度実績	令和8年度目標	最新の現況 (令和6年11月末時点)	進捗状況
1 在宅生活を支援する相談・支援体制の強化					
認知症の相談窓口を知っている人	25.3%	23.5%	50.0%	令和7年度にアンケート調査実施予定	—
地域ケア個別課題会議の事例検討件数（自立支援会議含む）	110件/年	93件/年	130件/年	71件	×
認知症・地域ケア相談医と地域包括支援センターの連携回数	226回/年	168回/年	220回/年	118回	△
多職種連携支援システムの登録施設数（累計）	—	146施設(R5.2.21)	200施設	248施設	○
認知症地域支援推進員による認知症初期集中支援チームと連携して支援したケース数	43件/年	51件/年	60件/年	48件/年	△
2 安心して暮らすための環境づくり					
市民後見人バンク登録者数	14人	21人	33人	21人	△
介護サービス相談員派遣事業所数	36事業所/年	13事業所/年	40事業所/年	24事業所/年	×
（危機管理課と連携した）事業所への運営指導時避難確保計画点検、助言・指導	21事業所/年	26事業所/年	27事業所/年	33事業所(予定)/年(R6)	○
3 認知症の早期発見・対応、家族支援					
認知症の相談窓口を知っている人【再掲】	25.3%	23.5%	50.0%	令和7年度にアンケート調査実施予定	—
認知症の方やその家族が定期的につながるができる場の開催回数	26回/年	16回/年	50回/年	17回	△
高岡市認知症SOS緊急ダイヤルシステム事業協力団体のメール配信箇所数	346箇所	399箇所	450箇所	392箇所	△
高岡市認知症SOS緊急ダイヤルシステム事業利用者数	159人	181人	300人	184人	△
高岡おでかけあんしんシール交付事業利用者数	—	71人	200人	142人	○
たかおか認知症個人賠償責任保険事業利用者数	—	91人	210人	173人	○
現状、課題及び今後の対応について 〈現状及び課題〉 ・在宅生活を支援するため、令和6年度から、市が主体となり、病院や診療所、歯科医院、訪問看護ステーション等の医療機関と薬局、介護事業所等が時間や場所に縛られずに、タイムリーに情報共有ができる多職種連携支援システム「高岡多職種ネット」の運用を開始し、多職種の情報共有や相談等に活用している。 ・地域ケア個別課題会議の回数の減少については、これまでの地域ケア個別会議等を通して顔が見える関係ができていることもあり、解決が困難なケースについては、地域包括支援センター職員が、専門職を集めて会議を行うのではなく、随時、専門職等に相談したり、ケース会議を開催しているためと思われる。 ・令和6年度から、認知症の方及びその家族の交流会と認知症看護認定看護師や介護福祉士などの専門職による個別相談会を定期的に開催している。 ・認知症の事業（高岡市認知症SOS緊急ダイヤルシステム事業、高岡おでかけあんしんシール交付事業、たかおか認知症個人賠償責任保険事業）については、利用者数も概ね増加している。 ・令和6年度は、介護サービス相談員11人で介護サービス施設・事業所等24か所の訪問を行っている。サービス利用者の相談に応じ、介護サービス提供者との意見交換を通じて、サービス改善等の提供を行っている。 〈今後の対応〉 ・多職種連携支援システム「高岡多職種ネット」の普及啓発をさらに図っていく。 ・地域ケア個別課題会議は、個別ケースの課題解決のみではなく個別ケースの検討を通じた多職種のネットワークの構築や介護支援専門員等の支援、地域課題の共有や課題解決の機能を担っていることから、地域包括支援センターには、計画的な会議の開催について指導を行う。 ・認知症の事業（高岡市認知症SOS緊急ダイヤルシステム事業、高岡おでかけあんしんシール交付事業、たかおか認知症個人賠償責任保険事業）についても、さらに周知を図る。 ・介護サービス相談員の養成を行うとともに、研修会や連絡会において必要な知識の周知や意見交換等を行い、質の向上に努めたい。また、訪問する施設・事業所等の1か所あたりの訪問回数の見直し等の工夫を行うことで、より多くの施設・事業所等に介護サービス相談員を派遣し、介護サービス利用者の不満や不安の解消に向けた支援の継続を図っていきたい。					

